

緩和医療科専門研修プログラム

I. 目的と特徴

1) 目的

本プログラムは、生命を脅かす疾患を抱える患者・家族に対して、身体的苦痛のみならず、全人的苦痛を評価し、患者・家族の価値観や意思を尊重した質の高い緩和医療を実践できる医師を育成することを目的とする。

がん診療における症状緩和、意思決定支援、終末期医療に加え、がん治療早期からの緩和ケア、栄養管理、リハビリテーション、地域連携など、患者の生活の質（QOL）を支える幅広い知識と臨床能力を身につけることを目指す。

2) 特徴

藤田医科大学の緩和医療は、1987年の七栗記念病院における緩和ケア病棟の開設以来、長年にわたり発展してきた歴史と実績を有する。2003年には全国初の「緩和医療学講座」が開設され、現在は藤田医科大学病院と七栗記念病院という、それぞれ特色の異なる2つの教育施設を活用した研修が可能である。大学病院では、がん診療連携拠点病院として、各専門診療科と連携しながら、がん治療中の患者に対する早期からの緩和ケア、緩和ケアチームによるコンサルテーション、緩和ケア病棟での専門的医療を経験することができる。一方、七栗記念病院では、緩和ケア病棟を中心に、終末期患者の全人的苦痛への対応、栄養管理、リハビリテーション、在宅療養支援など、患者の生活そのものを支える緩和医療を実践的に学ぶことができる。

また、医師だけでなく、看護師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーションスタッフ、歯科医師・歯科衛生士、医療ソーシャルワーカーなど、多職種によるチーム医療を重視している。特に、緩和医療と栄養管理、リハビリテーションを一体的に捉え、「すべては患者さんの笑顔のために」支援することを本プログラムの大きな特色とする。

さらに、臨床研修のみならず、症例検討、学会発表、臨床研究などを通じて、緩和医療の実践を科学的に検証し、将来の緩和医療を担う専門医・指導医としての基盤を形成する。

II. プログラム責任者・研修統括者

【プログラム責任者】臼井正信（外科・緩和医療学講座 教授）

【研 修 統 括 者】小出欣和（外科・緩和医療学講座 臨床教授）

伊藤彰博（七栗記念病院 緩和医療科 病院教授）

III. 運営指導体制および指導医数

教授 4 名、助教 3 名

Ⅳ. 診療実績（2025 年度）

入院患者 ----- 12,319 人

外来患者 ----- 1,333 人

平均在院日数 ----- 35.2 日

緩和ケア病棟稼働率 91.2%

在宅復帰率 ----- 17.9%

【緩和ケア診療加算】

算定患者数 ----- 803 人

算定件数 ----- 5,112 件

Ⅴ. 研修カリキュラム

1) 緩和医療学大学院コース（募集人数：各年 2 名）

年次								
3	4	5	6	7	8	9	10	11 以降
専攻科大学院生として臨床および臨床的研究に従事		専攻科大学院生として臨床的および実験的研究に従事し、博士号の獲得を目指す		・緩和医療専門医（日本緩和医療学会専門医制度）の取得を目指す ・大学医学部（本学ならびに七栗記念病院）での研修修了後の身分は医学部助教または、学位取得および業績によっては講師				

①外科・緩和医療学講座大学院生は診療・臨床研究・実験的研究を通して学位（博士号）取得と同時に緩和医療専門医の取得を目指す。また、NST（栄養サポートチーム）の一員として専門的な代謝・栄養学についても修練を積み、代謝・栄養学を駆使できる NST 医師を目指す。臨床研修は本学緩和ケアセンターおよび七栗記念病院のいずれでも実施可能である。

②3、4 年次は主に臨床に従事し、幅広い外科知識、技術および緩和医療の知識・手法と全人的対応を習得する。緩和ケア病棟や緩和チームのスタッフとして臨床に参加。4 年次以降は NST スタッフも兼任。同時に臨床研究を行い研究発表も積極的に行う。

5、6 年次は、臨床に従事しつつ実験的研究を行い、さらに質の高い研究発表や論文作成を行う。希望によりうち 1 年間は実験的研究に専念できる。がん悪液質や腫瘍代謝学的な研究のほか、発癌と増殖、免疫学的生体反応などについて研究する。学位取得後は引き続き修練を積み専門医の取得を目指す。

③所属・身分：外科・緩和医療学講座の大学院学生、学位取得後は助教または講師

④専門医取得：日本緩和医療学会専門医（緩和医療学関連学会：日本緩和医療学会、日本死の臨床研究会など、NST 医師（代謝・栄養学関連学会：日本栄養治療学会、日本外科代謝栄養学会など）、日本外科学会専門医、日本消化器外科学会専門医、日本消化器病学会専門医など

2) 緩和医療学修練コース（募集人数：各年2名）

年次								
3	4	5	6	7	8	9	10	11以降
・大学医学部（本学緩和ケアセンター・緩和ケアチームおよび七栗記念病院）にて研修 ・臨床および臨床研究（希望により実験研究）に従事 ・緩和医療専門医を目指す ・希望により学位取得も可								

①緩和医療専門医取得を目指して診療実績・臨床経験や研究業績のほか、全人的医療に関する知識・手法を習得する。希望に応じて同時に臨床的・実験的研究を行って緩和医療学・腫瘍学のスペシャリストを目指す。また、NST（栄養サポートチーム）の一員として専門的な代謝・栄養学についても修練を積み、NST 医師の取得を目指す。なお、臨床研修は本学緩和ケアセンターおよび七栗記念病院のいずれでも実施可能である。

②3、4年次は主に臨床に従事し、幅広い緩和医療の知識、技術を習得する。緩和ケア病棟スタッフ、緩和ケアチームスタッフのほか、緩和ケア病棟のNST スタッフを兼任。同時に臨床研究も行い研究発表を積極的に行う。5、6年次以降は、さらに緩和医療医として多くの臨床症例を経験しつつ、臨床的あるいは実験的研究を行い研究発表や論文作成を行い、基礎医学に立脚した緩和医療専門医および腫瘍学のスペシャリスト（オンコロジスト）を目指す。緩和ケア病棟NST スタッフも兼任。

③所属・身分：外科・緩和医療学講座に所属し医学部助手となる。学位取得後は業績に応じて助教あるいは講師。

④専門医取得：日本緩和医療学会専門医（緩和医療学関連学会：日本緩和医療学会、日本死の臨床研究会など）、NST 医師（代謝・栄養学関連学会：日本栄養治療学会、日本外科代謝栄養学会など）

VI. 窓口担当者

臼井正信（教授）

E-mail : pallia@fujita-hu.ac.jp